

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 18 日作成)

委員会名	構造ヘルスマニタリング小委員会	主 査 名：三田 彰
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (振動運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：篠崎祐三
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	環境保全および省エネルギーの観点から、良質なストックの機能・性能を良い状態に保つ良質なメンテナンスが必要である。その基本は、建物の機能・性能状態を常に把握し、正確な情報に基づいた予防措置を講じることにある。本小委員会は、こうした状況に鑑み、建物の機能・性能の状態を自動的に把握・評価する仕組みについて、学術的な観点から研究することを目的とする。	
委員構成 (委員名(所属))	三田彰(慶大)中村充(大林組)渡壁守正(戸田建設)小林保之(東電)金子佳生(東北大)川合廣樹(ABS)酒向裕司(鹿島)篠崎祐三(東理大)柴慶治(清水建設)薛松濤(近畿大)高木政美(大成建設)濱本卓司(武蔵工大)平田京子(日女大)松本優(東京海上)森田高市(国総研)	
設置 WG (WG 名：目的)	<u>センサおよび信号処理手法WG</u> ：健全性診断にはセンサで取得した各種信号を収集・分析し、構造の状態との関連性を決定する高度な技術が必要となる。そのコア技術であるセンサ技術及び信号処理技術について、学術的及び応用的視点から調査検討を行うことを目的とする。	
2004 年度予算	130,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	4 回開催。 (4/21・11名)(6/29・10名)(9/29・14名)(12/8・14名) ただし、オブザーバを含む。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構造ヘルスマニタリング実現のための技術的課題および社会的課題について集中的に討議した。</li> <li>・ 世界各国の構造ヘルスマニタリングについての研究動向について調査すると共に、来年度の国際会議に積極的に参画する計画を策定した。</li> <li>・ 来年度上海においてワークショップを開催する計画について討議した。</li> <li>・ 来年度末に作成する小委員会報告書の内容について討議した。</li> </ul>
目標の達成度	委員会 HP アドレス：  (当初の活動計画と得られた成果との関係) 構造ヘルスマニタリング技術が、単に要素技術のみを研究するだけでなく、政策的なアプローチ、社会科学的なアプローチ、金融工学的なアプローチ、など非常に広い視野からのアプローチを必要とするため、議論の幅が広がり、自由な討議を行った。多くの有用な意見が出された。予定通りの進捗状況である。
その他評価すべき事項	特になし。